

**イシノミ(無翅昆虫類・イシノミ目)の初期発生とその特徴**

町田竜一郎, 安藤 裕(筑波大・菅平実験セ)

Cleavage in the jumping bristletails (Insecta, Apterygota, Microcoryphia)

RYUICHIRO MACHIDA, HIROSHI ANDO

一般に外腮類昆虫の卵割は表割であり, これは外腮類の重要な特徴となっている。しかしながら, 今回, 演者等はヒトツモンイシノミの初期発生を観察したところ, この昆虫では, 核と細胞質の分裂の斉時性はあまり厳密ではないものの, 卵割は細胞質分裂を伴い, 全割の一種であることが確認された。このことは, 外腮類昆虫をこのイシノミ類と基本的に表割を行なうシミー有翅昆虫群とに系統的に二分する考え方を支持するものである。また, イシノミ類の全割を, 触角類において全割が基本形質と考えられることから, 昆虫類の多足類型祖先型の原的状态に関連していると考えるのは不自然でないものと思われる。

**ヒメキヌゲカムリ(甲殻綱・短尾類・カイカムリ科)の後期幼生について**

村岡健作(神奈川県博)

On the post-larval stage of the sponge crab, *Lasiodromia coppengeri unidentata* Ihle (Crustacea, Brachyura)

KENSAKU MURAOKA

カイカムリ科のカニ類の幼生発生は幼生期(ゾエア・メガロパ)を経て稚ガニに変態する型と, 幼生期を経ないで有接稚ガニに変態する型とが知られている。今回, 東京大学海洋研究所の白鳳丸の研究航海(KH81-5)でヒメキヌゲカムリのメガロパを採集し, 飼育して稚ガニに変態させた。本種の幼生期については, これまでに記載されていないが, 既報の本科の幼生発生の過程から推察して, 本種はゾエア期を経てメガロパ, 稚ガニへと変態することが考えられる。本種のメガロパの主な特徴は, 1) 既報の幼生よりも甲が大きい(甲長 3.6 mm), 2) 第3歩脚は指節が鎌状で, まだ鉗状には発達していない, 3) 尾肢は外肢が発達し, その外縁に27本の羽状毛を列生するが, 内肢はこん跡を止めるのみなどを挙げることができる。さらに, 本科のメガロパを比較識別するにあたっては頭部付属肢とともに, 歩脚の形態と尾肢の内外肢の発達に注目する必要がある。

**幼生形態から見たカクレガニ科(甲殻綱:短尾区)の系統類縁関係**

小西光一(北大・理・動物)

Larvae of the family Pinnotheridae (Crustacea: Brachura) and its bearing on phylogeny

KOOICHI KONISHI

カニ類の中でカクレガニ科(5亜科, 約300種)は共生種を多く含んでおり, それらは成体での特殊化傾向が強く, その分類に関しては問題点も少なくない。一方本科の幼生発生については現在迄に4亜科11属37種において一部又は全部の幼生期の記載があるが, これらの幼生は同一科内のみならず同一属内でも著しい形態及び齢期数の変異を示す。さらには成体における鰓の配列を調べた所, 一部の例外を除き幼生形質同様の大きな科内変異が見られ, これらの事は他の科では見られぬ傾向である。本科幼生はAikawa(1929, 1933)の幼生分類形質などを基にして5つの大きなグループに分ける事が出来, それぞれのグループは他の6つの科の幼生と多くの共通点を有する事がわかった。以上の事から, 本科は単一の系統のみに由来するものではなく, 現在の知見から推定して少なくとも2つ以上の異なる系統グループに由来する多系統的なものである可能性がある。